

2022年1月12日（水）

老球の細道650号

2021 ウインターカップ観戦独断と偏見の記

会津バスケットボール協会 室井 富仁

昨年末から見続けていた2021年バスケットボール WC の録画を見終えた。各県の決勝戦から始まり、WC 本戦は福島県代表チームの試合、そして男女共に準々決勝、準決勝、決勝のすべてのゲームを観戦した。今まで WC のゲームは男女共に決勝戦しか TV 放映がなかったが、今はスカパーやインターネットなどで1回戦からすべてのゲームを観戦できる。臨場感は薄れるが、「おや!？」と思ったプレイはリプレイできるのがメリットである。

今年も男女共に留学生や全国から選手をリクルートする私立高校が上位を占めていたが、優勝は留学生のいない福岡大濠、桜花学園であった。両チーム共ゴール下で相手チームの留学生に自由にプレイさせないディフェンスの強さとリバウンドの強さを兼ね備えていた。オフェンスにおいてはビックマンが外からも強力な1:1ができるのが勝因だったろうか。

全体的に見ると、オフェンスにおいてピック&ロールを多用するチームが多く、それを利用するガードプレイヤーのボールハンドリング、状況判断、そしてアイソレーションとアウトサイドシュートの能力が勝敗に大きく影響を与えたような気がする。また、東京五輪や NBA の影響だろうが3P シュートの確率も影響大であった。特に今大会注目の試合であった男子準決勝福岡大濠対仙台明成のゲームは明白だった。

WC の大舞台に立つチームは皆、物凄いシュート練習をして大体が8割くらいは入るシュート力を持っていると思う。しかし試合になると入るチームと入らなくなるチームとに分断される。シュートが入る、入らないは相手チームのディフェンスや本人のコンディションの問題もあるのだろうが、私は「チームオフェンスリズム」が影響しているのではないかと考えている。チームオフェンスリズムとは具体的に下記の通りである。

- ①ボールと人の動きが止まらない：リズムカルなシュートタイミングで打てる。ディフェンスは振り回されて守りにくい。
- ②スペーシングが良い：ディフェンスがロングクロズアウトになるのでゴールを余裕を持って狙える。
- ③ペイントアタック：インサイドアウトでシュートが打てる。インサイドから返ってくるボールをキャッチして打つのは普段の2人一組のシュート練習のパターンである。
- ④シュート&リバウンド：リバウンドが常にいればシュートも安心して打てる。シュートミスはリバウンドシュートのチャンスである。

試合においてシュートが入らなくなった時上で示した「チームオフェンスリズム」の観点からゲームを修正していくのも一つの策かと考える。運や偶然、はたまた神様に祈っているだけではシュートは入るようにはならない。

コーチにとってたくさんのトップレベルのゲームを見ることは義務である。それにより高い感性を養い日頃の指導にあたりたいものである。志の高い選手達の将来のためにも。